

運 營

1. 技 術 部

(1) クロッピングシステム部門

平成14年度の担当圃場面積は150.9a, 作付面積は春作128.6a (露地113.2a, ビニールハウス9.0a, 汎用温室6.4a), 秋作117.3a (露地101.9a, ビニールハウス9.0a, 汎用温室6.4a) で総作付面積245.9a, 作付率は163%であった。

土壌改良については、カボチャの間作エンバクの作付とエンバク・ソバの緑肥の作付を取り入れた。また八浜農場の協力を得て籾殻の投与も継続して行った。今年度から緑道公園の協力を得て冬季に落ち葉の散布も行った。

試験研究課題としては「カンショにおける本畑採苗法の開発」, 「間作エンバクのカボチャ作への活用」, 「サトイモにおける親イモの種イモへの活用」を取り上げ、圃場試験を行った。

第1表, 第2表に2002年度クロッピングシステム作物別耕種概要を示した。

カンショは昨年度の反省から窒素肥料の施肥量を減らしたので、蔓が過繁茂になることはなくイモの肥大は順調であった。しかし今年度は植え付け時の天候の都合でマルチ栽培ができなかったため、土壌が硬くなり、イモが掘りにくいなどの影響が出た。雑草対策として廃ビニールを用いて土面を被覆し効果をえた。また、保存中にイモが腐敗し、大量に廃棄することとなったが原因は不詳である。

エダマメは温室・ハウス・露地栽培を行い、従来通り主力作目である。温室とハウス栽培については、窒素肥料の施肥量を減らしたところ、一部倒伏はしたものの例年に比べ莢の充実具合がよくなり、品質が向上した。露地栽培については、天候の都合で移植栽培と直播栽培を併用した。直播栽培では、従来の播種機で播く方法に加え、レタスやホウレンソウなどの栽培跡地をそのまま利用したマルチ栽培も行った。マルチ栽培の前半の区では、発芽・生育とも順調であったが、中盤の区で発芽後にハトの被害にあったため、防鳥網を設置した。北海黒豆の後半の区ではカメムシなどの虫害が多発した。

カボチャ・ウリは、発芽はしたもののほとんどの

株が生育初期に枯れ、苗を補植した。その後の生育は順調であった。特に「えびす」で保存中の腐敗が多いので今後は保存方法を一考したい。今年度もエンバクを間作し、敷き藁用稲藁の節約と省力化の利点があった。しかし敷き藁が薄い部分を中心に草が繁茂した。今後は敷き藁の量を増やし、雑草を抑えたい。

スイートコーンはほとんどの区で移植栽培を行った。前半の区では畦間が狭かったため中耕除草できず雑草が繁茂した。後半の直播した区については発芽不良となった。全体を通して果実は小さめであった。

カンランは、春作では定植後、特に後半の区でタネバエの被害にあい枯死する個体が多かった。今年度から「マルシェ」と「金系201号甘藍」を導入したため、例年に比べて収穫時期が早まり品質は向上した。秋作ではここ数年、育苗の遅れから特に晩生で生育が悪かった。今年度はこれまでの反省を生かし、早めの播種を心がけたため、良好に結球し品質は向上した。

カリフラワー・ブロッコリーは、今年度雨除けハウスで栽培を試みた。露地栽培と比べ花蕾はやや小さめであったが、それ以外にさほど大きな違いはみられなかった。

春ホウレンソウは、昨年度の秋作と同一圃場で栽培した。今回も葉が黄化するなど生育は良くなかった。秋作は後半の区で気温の低下のため生育が遅れ、今年度は初めてトンネル栽培を導入した。収穫は2月以降まで行った。

サトイモは、石川早生を1畦分作付けした。またエグイモにおいては、孫イモに加えて親イモ・子イモを種イモとして利用したが、有意な差はみられず、親イモの種イモへの活用に展望をえた。除草体系では適期作業を逃し、雑草が繁茂し地上部の生育は阻害された。しかしながら、地下部には予想以上のイモがついており、例年に比べると収量は減少したものの、品質は悪くなかった。

シュンギクは発芽がやや不揃いであったものの、その後の生育は順調であった。生育後半にヤサイゾウムシとアブラムシの被害が出た。

春作ダイコンではとう立ちは少なかった。しかし後半の区で腐敗があり3～4割程度廃棄した。秋作については、9月中旬以降に播種したダイコン・カブで、根部の中が茶色に変色するというホウ素欠乏に似た症状が現れた。そのため、特にカブで相当量を廃棄した。またカブは前半の区で根部の変形が多くみられた。

ニンジンには、秋作の本紅金時以外は全て無マルチ栽培を行い、高品質の物を収穫できた。本紅金時は発芽が不揃いで、追播したものの追播時期が遅かったため十分に生育しなかった。来年度は播種後の灌水にムラが出ないように留意したい。

秋バレイショはここ数年不作であったが、野菜・花き部の担当圃場を借用して栽培したところ、まずまずの収量を得た。

ハボタンは育苗が順調であったので、従来通りの大きさになった。今年度は予約販売ではなく、店頭販売のみにしたところ、販売本数が伸びなかった。来年度は小型ハボタンの栽培にも取り組みたい。

ネギは今年も直接定植法を行った。収穫を始めた時期は1本1本が細く収穫・調製に時間を要した。その後の生育は順調で、さび病などの病気や虫害も出なかった。

春レタスは、両品種ともとう立ちや腐敗で半分程度が廃棄になった。秋作は、12月中旬以降は寒さで凍害が出るため、トンネル・ハウス・温室栽培も行

った。ハウス栽培では、シスコでハダニが大発生し、半分程度が収穫不能となった。またレッドウエーブは、収穫を始めた3月中旬にヒヨドリの食害にあい、一晩で収穫不能となった。温室栽培ではナメクジとアブラムシが発生し、品質が低下した。

ニラは、6畦中の2畦を冬季に黒ビニールマルチで被覆し、黄ニラを栽培した。初めての取り組みであったが、販売は好調であった。ナメクジが発生しやすい、トンネルの支柱が折れて被覆ビニールに穴が空き緑化してしまう、などの問題は生じたが、今後の改善は可能である。

ヤマノイモは、支柱栽培を行い、除草と乾燥防止のため剪定枝チップを畦面と通路に敷き詰めた。栽植密度の関係か、一個当たりのイモ重はかなり大きくなった。昨年の反省から、土の良い場所を選んで作付けたが、形状はあまり良くない物が多かった。来年度は土壌改良や灌水、施肥量、栽植密度などを工夫して、形が良く適正な大きさのイモを栽培したい。

セルリーは、2回目以降に播種したコーネル619が暑さのため発芽不良となり、育苗が遅れ定植の遅れにつながった。また、温室栽培でアブラムシが大発生し、品質は低下した。

ミズナ・パクチョイは前半の区でシンクイムシ(ハイマダラノメイガ)の被害にあった。ミズナの3回目播種分は、播種時期がやや遅れたため、株張りは良かったが草丈は伸びなかった。

(山奥隆・酒井富美子)

第1表 クロップिंगシステム部門2002年度作物別耕種概要(A)

作物	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
カンショ(1)	90	西4	20.0	ベニアズマ	4574.0	2079.1	308	130	25
カンショ(2)	90	西3	2.0	ベニアズマ	*	*	308	130	25
エダマメ(1)	171	温室C	2.0	サッポロミドリ	227.0	567.5	794	60	21
エダマメ(2)	171	温室A	2.0	サッポロミドリ	*	*	794	60	21
エダマメ(3)	167	ハウス5	0.9	宝石	198.0	1414.3	794	60	21
エダマメ(4)	167	ハウス4	0.5	宝石	*	*	833	60	20
エダマメ(5)	91	南3	1.2	宝石	1760.0	1364.3	794	60	21
エダマメ(6)	91	南3	2.4	宝石	*	*	529	90	21
エダマメ(7)	91	南3	2.4	宝石	*	*	529	90	21
エダマメ(8)	91	西5	0.4	宝石	*	*	417	60	40
エダマメ(9)	91	南3	2.0	北海黒豆	*	*	463	90	24
エダマメ(10)	91	西5	1.0	北海黒豆	*	*	1111	60	15
エダマメ(11)	91	西5	1.0	北海黒豆	*	*	833	60	20
エダマメ(12)	91	西5	1.0	北海黒豆	*	*	1111	60	15
エダマメ(13)	91	西5	1.5	北海黒豆	*	*	833	60	20
カボチャ(1)	179	西2	2.0	利休	378.8	1894.0	13	500	150
カボチャ(2)	177	西2	2.0	赤ずきん	107.1	535.5	13	500	150
カボチャ(3)	176	西2	2.0	えびす	477.9	2389.5	13	500	150
カボチャ(4)	178	西2	2.0	はやと	126.5	632.5	13	500	150
ウリ	234	西2	2.0	あさじ白瓜	171.3	856.5	13	500	150
スイートコーン(1)	222	南5	1.9	カクテル600	1304.0	1241.9	366	65	42
スイートコーン(2)	222	南5	1.7	カクテル600	*	*	366	65	42
スイートコーン(3)	222	南5・西3	1.9	カクテル600	*	*	366	65	42
スイートコーン(4)	222	南5	1.9	カクテル600	*	*	265	90	42
スイートコーン(5)	222	南5	3.1	カクテル600	*	*	265	90	42
春カンラン(1)	95	西5	1.0	マルシェ	435.8	1452.7	333	60	50
春カンラン(2)	95	西5	1.0	金系201号甘藍	*	*	333	60	50
春カンラン(3)	95	西5	1.0	おきな	*	*	333	60	50
カンラン(1)	95	西1	1.0	初秋	1693.4	2822.3	333	60	50
カンラン(2)	95	西1	1.5	南宝	*	*	333	60	50
カンラン(3)	95	西1	2.0	うしお	*	*	333	60	50
カンラン(4)	95	西1	1.5	湖月	*	*	333	60	50
カリフラワー(1)	106	ハウス5	0.2	スノークラウン	175.7	976.1	333	60	50
カリフラワー(2)	106	西1	0.7	スノークラウン	*	*	333	60	50
カリフラワー(3)	106	西1	0.5	スノークラウン	*	*	333	60	50
カリフラワー(4)	106	ハウス4	0.4	スノークラウン	*	*	333	60	50

第1表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
春ブロッコリー(1)	119	西5	1.0	ハイツ	41.1	205.5	333	60	50
春ブロッコリー(2)	119	西5	1.0	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー(1)	119	西1	1.3	ハイツ	213.4	927.8	333	60	50
ブロッコリー(2)	119	西1	1.0	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー(3)	169	ハウス4	0.6	ハイツ	60.9	1015.0	333	60	50
ハボタン(1)	103	西2	1.3	F1赤かもめ	457.0	1142.5	333	60	50
ハボタン(2)	103	西2	1.3	F1白かもめ	*	*	333	60	50
ハボタン(3)	103	西2	0.8	F1赤はと	*	*	333	60	50
ハボタン(4)	103	西2	0.8	F1白はと	*	*	333	60	50
春ホウレンソウ(1)	105	西5	1.0	リード	224.0	560.0	2222	30	15
春ホウレンソウ(2)	105	西5	1.0	リード	*	*	2222	30	15
春ホウレンソウ(3)	105	西5	0.5	リード	*	*	1111	60	15
春ホウレンソウ(4)	105	西5	0.5	リード	*	*	1111	60	15
春ホウレンソウ(5)	105	西5	0.5	おかめ	*	*	1111	60	15
春ホウレンソウ(6)	105	西5	0.5	おかめ	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(1)	105	西2	0.5	リード	851.9	1135.9	1111	60	15
ホウレンソウ(2)	105	西2	0.5	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(3)	105	西2	0.5	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(4)	105	西2	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(5)	105	西2	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(6)	105	西2	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(7)	105	西2	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(8)	105	西2	1.0	パレード	*	*	1111	60	15
ホウレンソウ(9)	105	西2	1.0	パレード	*	*	1111	60	15
春ネギ(1)	174	温室A	0.5	フレッシュ小ねぎ	4.9	98.0	2222	30	15
春ネギ(2)	233	ハウス3	1.5	九条ねぎ	47.7	318.0	2666	25	15
ネギ	117	南3	10.0	九条ねぎ	1290.0	1290.0	370	90	30
春レタス(R1)	218	西5	1.0	レッドウェーブ	135.6	678.0	416	60	40
春レタス(R2)	218	西5	1.0	レッドウェーブ	*	*	416	60	40
春レタス(C1)	214	西5	1.0	シスコ	106.3	1063.0	416	60	40
春レタス(C2)	215	温室A	1.0	シスコ	37.5	375.0	416	60	40
レタス(R1)	218	南3	0.6	レッドウェーブ	140.5	780.6	416	60	40
レタス(R2)	218	南3	1.2	レッドウェーブ	*	*	416	60	40
レタス(R3)	217	ハウス4	0.5	レッドウェーブ	3.9	78.0	333	60	50
レタス(R4)	219	温室A	0.9	レッドウェーブ	101.2	1124.4	416	60	40
レタス(C1)	214	南3	0.6	シスコ	64.2	1070.0	416	60	40
レタス(C1)	214	南3	0.6	シスコ	64.2	1070.0	416	60	40
レタス(C2)	213	ハウス3	1.5	シスコ	88.3	588.7	416	60	40
レタス(C3)	215	温室A	0.6	シスコ	81.9	1365.0	416	60	40

第1表 クロップिंगシステム部門2002年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 圃場 コード	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
ニラ(1)	242 ハウス2	1.5	グリーンベルト	620.9	2069.7	1111	60	15
ニラ(2)	242 ハウス1	1.5	グリーンベルト	*	*	833	60	20
セルリー(1)	212 ハウス5	0.7	トップセラー	134.5	1921.4	416	60	40
セルリー(2)	118 温室C	1.0	コーネル619	64.2	642.0	416	60	40
セルリー(3)	118 温室A	0.5	コーネル619	*	*	416	60	40
パクチョイ(1)	165 西2	0.5	-	76.9	769.0	833	60	20
パクチョイ(2)	165 西2	0.5	-	*	*	833	60	20
シュンギク(1)	173 温室C	0.5	大葉新菊	124.5	1245.0	1111	60	15
シュンギク(2)	173 温室C	0.5	大葉新菊	*	*	1111	60	15
ミズナ(1)	109 西2	0.5	千筋	588.9	2617.3	833	60	20
ミズナ(2)	109 西2	0.5	千筋	*	*	833	60	20
ミズナ(3)	109 西2	1.3	千筋	*	*	833	60	20
サトイモ(1)	122 西3	9.6	エグイモ	829.3	829.3	125	100	80
サトイモ(2)	122 西3	0.4	石川早生	*	*	125	100	80
ヤマノイモ	236 西3	2.0	つくねいも	105.3	526.5	333	60	50
春カブ(1)	235 ハウス4	0.5	耐病ひかり	127.3	1273.0	833	60	20
春カブ(2)	235 ハウス4	0.5	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ(1)	94 西5	1.0	耐病ひかり	618.7	1546.8	833	60	20
カブ(2)	94 西5	1.0	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ(3)	94 西5	1.0	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ(4)	94 西5	1.0	耐病ひかり	*	*	833	60	20
春ダイコン(1)	93 西2	0.5	おはる	376.9	1884.5	666	60	25
春ダイコン(2)	93 西2	0.5	おはる	*	*	666	60	25
春ダイコン(3)	93 西2	0.5	おはる	*	*	666	60	25
春ダイコン(4)	93 西2	0.5	おはる	*	*	666	60	25
ダイコン(1)	93 西5	1.0	耐病総太り	2167.7	4335.4	666	60	25
ダイコン(2)	93 西5	1.0	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(3)	93 西5	1.0	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(4)	93 西5	1.0	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(5)	93 西5	1.0	耐病宮重	*	*	833	60	20
春ニンジン(1)	120 西2	1.0	向陽2号	365.5	1218.3	2222	30	15
春ニンジン(2)	120 西2	1.0	向陽2号	*	*	2222	30	15
春ニンジン(3)	120 西2	1.0	向陽2号	*	*	2222	30	15

第1表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 圃場 コード	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
ニンジン(1)	120 西5	1.0	陽明五寸	947.4	2368.5	2222	30	15
ニンジン(2)	120 西5	1.0	陽明五寸	*	*	2222	30	15
ニンジン(3)	120 西5	1.0	向陽2号	*	*	2222	30	15
ニンジン(4)	120 西5	1.0	本紅金時	*	*	3333	30	10
春バレイショ(1)	186 南3	4.0	男爵いも	675.0	1687.5	400	100	25
春バレイショ(2)	183 南3	3.0	メイクイーン	464.0	1546.7	400	100	25
春バレイショ(3)	184 南3	1.5	デジマ	151.0	1006.7	400	100	25
春バレイショ(4)	182 南3	1.0	レッドアンデス	161.0	1610.0	400	100	25
秋バレイショ	184 南1	6.5	デジマ	499.5	768.5	400	100	25
エンバク(1)	- 西2	4.0	極早生スプリンター	*	*	*	30	条播
エンバク(2)	- 西2	6.0	ネグサレタイジ	*	*	*	30	条播
エンバク(3)	- 西4	0.8	ネグサレタイジ	*	*	*	30	条播
サトウキビ	69 西1	0.5	-	5.5	110.0	167	120	50
ソバ(1)	- 南5	5.0	高嶺ルビー	*	*	*	*	バラ播
ソバ(2)	- 南5	5.0	グレートルビー	*	*	*	*	バラ播
マビキナ(ニンジン)	216 -	*	-	34.9	*	*	*	*
マビキナ(ダイコン)	188 -	*	-	130.2	*	*	*	*
マビキナ(カブ)	187 -	*	ひかり	68.6	*	*	*	*

第2表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量			基肥量		
					kg/10a			kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
カンショ(1)	-	05.14	10.01	11.29	6.7	20.0	19.5	6.7	20.0	19.5
カンショ(2)	03.27	06.03	11.12	11.29	6.7	10.0	9.9	6.7	10.0	9.9
エダマメ(1)	03.15	-	06.04	06.11	5.3	14.0	16.0	5.3	14.0	16.0
エダマメ(2)	04.02	-	06.17	06.21	5.3	14.0	16.0	5.3	14.0	16.0
エダマメ(3)	04.16	-	07.02	07.08	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(4)	04.17	-	07.01	07.03	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
エダマメ(5)	04.17	05.01	07.09	07.24	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(6)	04.19	-	07.09	07.24	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(7)	04.30	-	07.29	08.07	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(8)	05.07	05.16	07.25	07.29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エダマメ(9)	05.22	06.03	08.07	08.13	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(10)	05.31	-	08.19	08.23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エダマメ(11)	06.07	-	08.26	08.30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エダマメ(12)	06.21	-	09.02	09.06	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エダマメ(13)	07.01	-	09.09	09.13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カボチャ(1)	03.22	-	07.04	08.19	38.9	35.6	34.6	29.3	26.0	25.0
カボチャ(2)	03.22	-	07.04	08.19	38.9	35.6	34.6	29.3	26.0	25.0
カボチャ(3)	03.22	-	07.11	08.19	38.9	35.6	34.6	29.3	26.0	25.0
カボチャ(4)	03.22	-	07.11	08.19	38.9	35.6	34.6	29.3	26.0	25.0
ウリ	04.26	05.21	07.04	08.19	38.9	35.6	34.6	29.3	26.0	25.0
スイートコーン(1)	03.27	04.23	06.24	06.28	29.0	23.8	22.8	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(2)	04.11	05.07	07.01	07.05	29.0	23.8	22.8	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(3)	04.24	-	07.09	07.17	29.0	23.8	22.8	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(4)	05.09	-	07.22	07.25	30.3	27.0	26.0	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(5)	05.22	06.12	07.29	08.05	30.3	27.0	26.0	21.3	18.0	17.0
春カンラン(1)	02.13	03.22	05.22	06.03	31.9	24.4	23.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(2)	02.13	03.22	06.05	06.18	31.9	24.4	23.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(3)	02.28	04.09	06.24	07.01	32.4	22.8	21.8	21.3	18.0	17.0
カンラン(1)	07.18	08.22	10.16	10.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(2)	07.18	08.22	10.23	11.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(3)	07.30	09.06	11.12	04.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(4)	07.30	09.06	12.16	03.13	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(1)	07.18	08.20	11.08	11.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(2)	07.18	08.21	10.28	12.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(3)	07.30	09.06	11.11	12.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(4)	08.23	09.27	12.24	01.31	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量			基肥量		
					kg/10a			kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春ブロッコリー(1)	02.28	04.09	06.03	06.28	29.3	22.8	21.8	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー(2)	03.14	04.16	06.07	06.28	29.3	22.8	21.8	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー(1)	07.18	08.22	10.16	01.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー(2)	07.30	09.06	11.05	01.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー(3)	08.23	09.27	12.24	01.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン(1)	08.05	09.11	11.11	12.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン(2)	08.05	09.11	11.11	12.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン(3)	08.05	09.13	11.11	12.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン(4)	08.05	09.13	11.11	12.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(1)	03.12	-	04.25	05.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(2)	03.20	-	05.02	05.09	21.8	18.2	17.1	21.8	18.2	17.1
春ホウレンソウ(3)	04.10	-	05.14	05.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(4)	04.22	-	05.24	05.28	23.2	18.8	17.8	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(5)	05.08	-	06.06	06.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(6)	05.20	-	06.17	06.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(1)	08.30	-	10.08	10.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(2)	09.03	-	10.10	10.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(3)	09.18	-	10.22	10.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(4)	09.25	-	10.28	11.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(5)	10.02	-	11.18	12.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(6)	10.09	-	12.09	12.24	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(7)	10.17	-	12.24	02.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(8)	10.22	-	02.05	02.18	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(9)	10.24	-	02.18	03.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ネギ(1)	04.02	-	06.14	07.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ネギ(2)	04.08	-	06.10	07.03	21.8	18.2	17.2	21.3	18.0	17.0
ネギ	04.08	07.05	11.11	04.14	35.4	32.1	31.1	21.3	18.0	17.0
春レタス(R1)	02.22	03.26	04.25	05.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス(R2)	03.08	04.11	05.20	06.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス(C1)	02.22	03.26	05.13	05.30	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス(C2)	03.08	04.11	05.31	06.06	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(R1)	09.10	10.07	11.15	12.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(R2)	09.20	10.18	12.25	01.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(R3)	09.20	10.28	03.12	03.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(R4)	10.03	11.08	12.16	03.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(C1)	09.10	10.07	11.25	01.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(C2)	09.20	10.21	01.14	02.06	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス(C3)	10.10	11.08	02.12	03.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量			基肥量		
					kg/10a			kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
ニラ(1)	2001.03.22	2001.08.21	04.02	12.03	7.5	7.5	7.5	0.0	0.0	0.0
ニラ(2)	2001.03.22	2001.08.20	05.07	03.31	10.7	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0
セルリー(1)	05.20	08.20	12.04	01.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
セルリー(2)	06.17	11.08	02.03	02.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
セルリー(3)	06.17	01.08	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パクチョイ(1)	08.23	09.13	10.07	10.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
パクチョイ(2)	09.13	10.04	10.18	11.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
シュンギク(1)	09.26	-	11.01	02.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
シュンギク(2)	10.04	-	11.14	02.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ(1)	08.23	09.13	10.21	11.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ(2)	09.13	10.07	11.12	12.18	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ(3)	10.07	11.01	12.24	03.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
サトイモ(1)	04.11	-	11.13	12.02	39.9	36.6	35.6	21.3	18.0	17.0
サトイモ(2)	04.11	-	12.03	12.03	39.9	36.6	35.6	21.3	18.0	17.0
ヤマノイモ	04.18	-	10.29	11.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ(1)	03.27	-	05.08	06.03	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ(2)	04.03	-	05.15	06.03	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(1)	08.29	-	10.08	11.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(2)	09.10	-	11.05	11.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(3)	09.24	-	11.21	12.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(4)	10.03	-	12.19	01.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(1)	04.01	-	05.31	06.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(2)	04.05	-	06.06	07.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(3)	04.15	-	07.01	07.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(4)	04.26	-	07.01	07.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(1)	08.29	-	10.21	11.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(2)	09.10	-	11.12	11.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(3)	09.24	-	11.27	12.24	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(4)	10.03	-	01.17	02.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(5)	09.24	-	11.27	01.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(1)	03.12	-	06.10	07.22	23.8	19.1	18.1	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(2)	03.26	-	06.21	07.22	23.8	19.1	18.1	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(3)	04.15	-	07.22	07.30	23.8	19.1	18.1	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2002年度作物別耕種概要(B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量			基肥量		
					kg/10a			kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
ニンジン(1)	08.01	-	10.21	12.24	24.5	21.2	20.2	21.3	18.0	17.0
ニンジン(2)	08.09	-	10.29	11.28	24.5	21.2	20.2	21.3	18.0	17.0
ニンジン(3)	08.19	-	11.18	01.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニンジン(4)	08.21	-	12.03	01.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(1)	03.04	-	05.30	06.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(2)	03.04	-	06.04	06.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(3)	03.04	-	06.13	06.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(4)	03.04	-	06.13	06.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
秋バレイショ	09.05	-	11.11	11.11	28.2	24.9	23.9	21.3	18.0	17.0
エンバク(1)	02.20	-	05.13	05.13	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
エンバク(2)	02.20	-	05.13	05.13	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
エンバク(3)	02.20	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サトウキビ	05.08	-	11.19	11.19	26.1	22.8	21.8	21.3	18.0	17.0
ソバ(1)	09.19	-	-	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ソバ(2)	09.19	-	-	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
マビキナ(ニンジン)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マビキナ(ダイコン)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マビキナ(カブ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) 汎用耕地部門

今年度は、生育期間中の雨が少なく気温も例年に比べて高く推移した。移植栽培は岡山水田，八浜水田共に苗の生育は順調に進み，田植えも平年並みに行え活着も順調であった。乾田直播栽培は播種時期に雨が多くヒノヒカリ，アケボノ共に播種時期が遅れ，発芽不良，発芽遅れが発生したため初期生育は不調であった。しかし，その後は天候が回復して高温，多照で経過し，中期以降の生育は順調に促進された。出穂期はヒノヒカリ，アケボノ共に昨年より早く，台風の襲来もなく倒伏等の被害も少なかった。また高温，多照は出穂後も続いたので登熟はおおむね順調に推移した。このことにより収穫量は晩生のアケボノが中生のヒノヒカリを上まわる結果となった。水稻の作柄は全国平均が「101」，岡山県南部の作況指数は「106」であった。岡山水田は栽培品種をアケボノに統一し，田植え機を用いて成苗（葉齢5～5.5）を1号，2号水田に移植栽培した。また，

3号水田では，修士・卒業論文作成のための試験が行われ，多くの研究成果が報告された。八浜水田は1号～5号水田を乾田直播栽培，6号水田に成苗（葉齢5～5.5）を用いた移植栽培とし，中生品種のヒノヒカリ，晩生品種のアケボノを栽培し作業の分散をはかった。また，発芽不良圃場，かき殻の多い場所では秋落ちしやすい傾向がみられたため，水田の一部に追肥を行った。

本農場の水稻収量は岡山水田579kg/10a，八浜水田アケボノ555kg/10a，ヒノヒカリ488kg/10a，平均546kg/10aとなり，昨年（552kg/10a）並であった。また，牧草のヘイ・スーダンは降水量こそ少なかったが天候に恵まれ1回刈り目は16,150kg/10a，2回刈り目には9,550kg/10a，合計25,700kg/10a（生草）となった。また，本年度はヒノヒカリ8,610kgを学内販売した。

（多田正人）

第1表 栽培面積

作目	栽培様式	品種	栽培圃場及び面積(a)	合計(a)	
岡山水田	水稻	移植	アケボノ	1号(40)	40
		移植	アケボノ	2号(64)	64
			試験研究用	3号(5, 研究室・未収穫)	-
八浜水田	水稻	直播	アケボノ	1号(211) 2号(158) 3号(69)	438
		直播	ヒノヒカリ	4号(81) 5号(134)	215
	移植	アケボノ	6号(54)	54	
	牧草	ヘイ・スーダン	1号(70)	70	

第2表 栽培の概要

作目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量		施肥量 (kg/10a)			収穫期	
				kg/10a	種類	N	P ₂ O ₅	K ₂ O		
岡山水田	水稻	アケボノ	5/8・6/11～12	1.4	L P	8.4	8.4	8.4	10/18～10/23	
八浜水田										
八浜水田	水稻	直播	アケボノ	5/24～5/28	6.0	L P	8.4～12.2	8.4	8.4	10/28～11/8
		直播	ヒノヒカリ	5/14～5/22	9.0	L P	8.5～15.2	8.5	8.5	10/11～10/16
	移植	アケボノ	5/15・6/19	1.4	L P	8.4	8.8	8.8	11/8	
牧草	直播	ヘイ・スーダン	4/19	7.0	化成	14.1	6.2	6.2	7/22～12/24	

第3表 水稲防除作業内容

	薬剤名	圃場名(号田)	使用量(/10a)	月/日
八浜水田				
除草剤	サターン乳剤	1,2,3,4,5	934ml	5/14~6/3
	スタム乳剤	1,2,3,4,5	934ml	5/14~6/3
	スタム乳剤	1,2,3,4,5	727ml	6/13~6/14
	クサノック粒剤	1,2,3,4,5	3.2kg	6/24~6/28
	ダイハート粒剤	6	60 g	6/21
	クインチャー乳剤	1,2	96cc	7/24~7/26
	24-D水和剤	1,2,3,4,5,6	100 g	7/24~7/31
殺虫・殺菌剤	ダイシストン粒剤	1,2,3,4,5	4.3kg	5/22~6/5
	E P N乳剤	1,2,3,4,5,6	72cc	7/24~7/31
	ハリダシ水和剤	1,2,3,4,5,6	78 g	7/24~7/31
	アプロート水和剤	1,2,3,4,5,6	78 g	7/24~7/31
	ヒノサン乳剤	1,2,3,4,5,6	90cc	8/21~8/27
	E P N乳剤	1,2,3,4,5,6	96cc	8/21~8/27
	ハリダシ水和剤	1,2,3,4,5,6	90 g	8/21~8/27
	トホソ乳剤	1,2,3,4,5,6	90cc	8/21~8/27
岡山水田				
除草剤	クサメツツロアブル	1,2	500cc	6/17
	24-D水和剤	2	100 g	7/26
殺虫・殺菌剤	E P N乳剤	1,2	72cc	7/26
	ハリダシ水和剤	1,2	78 g	7/26
	アプロート水和剤	1,2	78 g	7/26
	E P N乳剤	1,2,3	90cc	8/22
	ハリダシ水和剤	1,2,3	96 g	8/22
	アプロート水和剤	1,2,3	90 g	8/22
	ヒノサン乳剤	1,2,3	90cc	8/22

(3) 装置化生産部門

i. 果樹部

平成14年度の果樹部担当圃場面積は岡山農場163.4a（露地圃場103.6a，ビニールハウス52.5a，ガラス室7.3a）と本島農場49a（露地圃場）で前年度と同様であった。岡山農場では今年度も改植を進め、1号園のカキ‘平核無’を収穫終了後にすべて伐採し、跡地を苗木養成圃場に転換した。4号園のキウイフルーツ跡地には、ネクタリン‘秀峰’，スモモ‘ソルダム’，プルーン‘サンプルーン’，アンズ‘信州大実’およびアーモンド‘ダベイ’を新植した。

雨よけ栽培を行っている3号園（ブドウ）と2号園（リンゴ）では、破損の著しかった防鳥網と通風不良の原因になっていた防風網を取り外し、防鳥と防獣のために16メッシュのラッセルネットを側面全体に取り付けた。

岡山農場ではこれまで地表面管理が行き届かないことが多く、夏季には雑草が繁茂することが多かった。今後、数種類の草種を導入して草生栽培を取り入れる予定であるが、その準備のため、果樹園全体に拡大している宿根性の難防除雑草であるワルナスビを根株の堀取りや除草剤の塗布処理で徹底的に除去するように努めた。

岡山農場では、平成14年1～4月および7～8月の気温が高く推移し、11月には気温が急激に低下した。7～8月は記録的な少雨で、特に7月29日から8月2日までの間は渇水のため座主川からの圃場散水設備の取水が困難となり、上水道設備のない圃場では作物の生育に影響した。萌芽期から収穫期までの生育は各樹種ともに例年より10日前後早くなり、晴天日が多かったため灌水設備の整った施設栽培園を中心に果実の食味は例年よりも優れた。夏季の高温と少雨の影響で、モモの早生品種と中生品種では果実の成熟期が短期間に集中し、モモの晩生品種とカキでは果実の肥大が劣った。キウイフルーツとカキでは夏季に広範囲で落葉が発生した。

岡山農場では、病害や鳥害の発生は例年よりも少なかったが、虫害の発生は例年よりも多かった。剪定枝の処理が遅れたことも重なってシンクイムシ類

やスカシバ類の発生が多く、特に雨よけ栽培のリンゴやブドウの被害が大きかった。7～9月にはホソヘリカメムシが岡山農場全体で発生し、ブドウ‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’やリンゴ‘つがる’が被害を受けた。

本島農場では、8月に付近の山林で1週間近く続く大規模な山火が発生し、農場も一部の園で消火活動時の海水による塩害を受けた。夏季の少雨は本島農場でも記録的で、ため池の水が枯渇し、同時期に灌水設備の故障も重なったためカンキツ類の生育に影響した。平成13年10月から非常勤職員が交代して管理作業に不慣れであったこともあり、生産された果実の品質は全体的に劣った。

平成14年度の岡山農場における生産実績を表1に、本島農場における生産実績を表2に示した。なお、本島農場に関しては、前号で掲載することができなかった平成13年度の実績についても併せて掲載した。主な果樹の概況は次の通りである。

(1) モモ

天候の影響で例年よりも10日程度早い生育となり、一部で樹勢の低下した樹がみられたが各品種ともほぼ順調に生育した。4号園では樹冠の拡大が進み、隣接する樹の間隔が狭くなった場所では前年に引き続いて間伐や縮伐を実施した。

早生品種の‘あかつき’と‘紅清水’では前年度並みの生産量で、外観の良い果実が多く、秀品率は例年になく高かった。収穫初期には曇天日が多かったため、果実の糖度がやや低く食味にばらつきがみられたが、渋味は例年よりも少なく、晴天日が続いた後半には糖度も上がり、‘あかつき’の収穫最終日の平均Brix値は17であった。

‘清水白桃’では前年度より生産量が増加した。これは1号園の実験樹の生産量を加味しているためで、主力である4号園の生産量は前年度並みであった。高温の影響で収穫直前に果実の成熟が急速に進み、成熟期が早生品種と重なったため、収穫が遅れぎみとなり、果実は一般に大玉であったが過熟のものが多かった。一部の果実には渋味が認められ、1号園の老木の果実では食味にばらつきがみられた。

‘黄金桃’は少雨の影響を受けて玉太りが悪く、糖度はBrix値で12～14であったが果実に渋味があり、食味は良くなかった。

今年度は、7月15日から7月26日までの2週間に‘あかつき’、‘紅清水’および‘清水白桃’の3品種の収穫期が集中した。市場価格も下落していたため販売単価は例年の3分の1程度であった。販売所で直売可能な量には限りがあるため冷蔵庫で保管したが、貯蔵中の減耗や品質の低下が大きく相当量を廃棄した。

今年度も‘清水白桃’、‘あかつき’、‘紅清水’において合計約600kgの果実を贈答用の化粧箱入りで販売した。

(2) ブドウ

【雨よけハウス】

各品種とも着果量を制限したため園全体の生産量は前年度よりも減少した。一部の樹では果実の着色不良や糖度不足が認められたが、着房数や摘粒の程度はおおむね適当で、脱粒や裂果が少なかったため商品化率が高く、例年より1ヶ月早い10月中旬にはすべての品種の収穫を終えた。

コナカイガラムシによる果房への被害がここ数年間の大きな減収要因となっていたが、萌芽前に高圧洗浄機を用いて粗皮剥ぎを行った‘藤稔’と‘ピオーネ’では、果房への被害を最小限に抑えることができた。コナカイガラムシによる被害は園全体に拡大しているため、今年度は‘マスカット・ベリーA’と‘巨峰’で2月中旬から3月中旬にかけて前年度と同様の方法で粗皮剥ぎを行った。今年度は害虫の発生が多く、剪定枝を8月までブドウ園付近に野積みしていたため、野積み場所に近い‘藤稔’や‘ピオーネ’ではブドウスカシバによる被害が多発した。

‘藤稔’では着果量を制限したため着色が良く、成熟期も例年よりも10日程度早くなった。高温のため果肉の軟化が早く、Brix値は16前後であったが、風味が良く、果実の食味は良好であった。

‘ピオーネ’では着果量を10a当たり1,000kg程度まで制限したが、果実の着色が進まない個体が多かった。樹の極端な衰弱や徒長的な生育は認められなかったため、ウイルス病に罹病している個体が存在し

ている可能性が考えられた。

‘マスカット・ベリーA’は今年も有核栽培を行ったが、花振るいが多く、複数の樹で樹勢の低下が認められた。‘巨峰’は着粒程度や果房の大きさが適当で、販売時の揃いが良好であった。‘ヒロハンブルグ’は果実の着色は不良であったが、糖度は高かった。‘アーリー・スチューベン’は平均Brix値が19前後と濃厚な食味で、成熟期が例年よりも1週間程度早かった。‘デラウェア’は1回目のジベレリン処理を一斉に行ったため、一部の果実で種子が入った。‘安芸クイーン’の苗木の生育は芳しくなかった。

今年度も‘藤稔’、‘ピオーネ’、‘巨峰’および‘ヒロハンブルグ’の樹勢の強い樹については樹勢を安定させるために主枝を延長して樹冠の拡大をはかった。

【ガラス室】

夏季に晴天日が多かったため果実の品質が良く、作柄は良好であった。‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’は2月加温、無加温栽培ともに果実の品質が例年よりも優れ、果粒の肥大はやや劣ったが、Brix値は17以上の果実がほとんどで、3分の1程度を贈答用の化粧箱入りで販売した。‘グロー・コールマン’はウドンコ病の発生が多かったが、果実は食味、着色ともに例年よりも優れた。

大温室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では芽座が欠損している箇所が増加した。このため、芽座の欠損が著しい樹では主枝の更新ができるように新しい主枝の養成を始めた。

無加温で栽培した‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、成熟期にホソヘリカメムシの吸汁害を受けて果粒がしみ状に褐変する被害が収穫後半に多発した。

(3) リンゴ

ハウス内の高温対策として、7月上旬に、ハウス側面全体に取り付けていた2mmメッシュの防風ネットをすべて16mmメッシュのラッセルネットに交換した。今年度も‘ふじ’の間伐を進め、‘ふじ’では一部を除き樹列間3m×樹間4mの栽植密度になった。

ネットの交換と間伐によって通風が改善されたことに加えて、殺ダニ剤の適期散布の効果もあり、ここ数年毎年悩まされてきたナミハダニによる被害が大幅に減少した。ハダニによる夏季の落葉がなかったため、各品種とも果実の食味は例年よりも優れ、‘ふじ’では収穫期が2週間程度早くなり果実の着色に改善がみられた。

ハダニによる被害は減少したが、ネットの交換、防除の遅れ、夏季の高温少雨などの影響によって害虫による被害が目立った。

特に、晩生品種である‘ふじ’では、隔年結果の影響により花芽の数が少なかったことに加えて、シンクイムシ類・ハマキムシ類による被害が著しく、樹によってはほとんどすべての果実が食害を受け、大幅な減収となった。

(4) カキ

夏季の少雨と着果過多の影響で果実の肥大が進まず、各品種ともに小玉傾向であったが、果実の食味は濃厚なものが多かった。

‘平核無’では成熟期が例年より2週間程度早く、脱渋後の果実のBrix値は18前後で食味はきわめて良かった。

‘富有’では今年度も12月まで樹上に果実を残したが、10月下旬から11月にかけて急激に気温が低下したため、十分に着色しない果実が多かった。

‘西条’では夏季の少雨の影響が著しく、落葉する個体や果実の溝に沿って裂果する個体が多くみられた。

‘愛宕’では、小玉果実をすべて廃棄したことで収穫量が減少した。未脱渋の生果の販売が好調であったため干し柿に加工する量は例年よりも少なかった。乾果の品質は優れたが、乾燥中の降雨と11月の低温の影響で乾燥には50日以上を要し、1月からの販売となった。

1号園のカキは、収穫後に‘平核無’をすべて伐採したため‘愛宕’のみとなった。2号園の‘平核無’と‘西条’では、今年度も樹冠の拡大を図るため間伐予定樹の縮伐を行った。‘平核無’は今年度も生産量が販売所で直売可能な数量を上回り、脱渋後の果実の軟化のため相当量を廃棄した。

(5) キウイフルーツ

樹冠面積は拡大しているが、夏季に高温と少雨の影響で落葉した樹が数本あり、このような樹では樹勢の回復のためほとんどの果実を8月中旬に摘果した。この結果、着果数が前年度よりも少なくなり年内に完売できる見通しとなったため、収穫を11月下旬～12月上旬に遅らせて果実の糖度上昇を図った。今年度から追熟にエチレングスを使用したため、3～5日間のエチレン処理で容易に追熟し、追熟中の腐敗はほとんど発生しなかった。追熟後の果実は食味、品質ともに優れ、平均Brix値は21～22であった。6月に果実へのフルメット処理を行ったが、収穫した果実の大きさにはばらつきがみられた。

(6) 見本園

見本園の市道に面している部分に、除草管理作業の軽減と景観保護のため有機物によるマルチを行った。使用した有機物は未熟のものが多かったが、ビワおよびセイヨウナシでは公園の落葉を、ウメでは剪定枝を粉碎したものを、それぞれ地表面全体に敷き詰めた。

(7) 柑橘類 (本島農場)

夏季の高温と少雨、灌水設備の故障、非常勤職員の交代、労力不足などの様々な要因が重なり栽培管理には困窮した。

ウンシュウミカンでは摘果量が少なかったため大幅な着果過多となり、直径50mm以下の販売不可能な果実の割合が多くなった。各園で施肥過多と除草時期の影響で窒素の遅効きが認められ、ウンシュウミカンでは着色が遅れ果実の酸味が強くなった。普通温州とセミノールではカラスやヒヨドリによる果実への食害が著しく、セミノールでは収穫皆無となった。ハッサクでは隔年結果が著しく、生産量は前年度の1割以下であった。平成13年3月に収穫した前年度産の甘夏を冷蔵保存して9月上旬まで販売した。

(近藤毅典・永田恵美)

第1表 平成14年度岡山農場果樹類生産量

種類	品種	面積(a)	生産量(kg)
モモ	清水白桃	13.9	1,059
	あかつき	3.7	585
	紅清水	3.5	354
	黄金桃	4.0	454
ブドウ	藤稔	8.5	796
	ピオーネ	8.2	628
	巨峰	4.3	623
	マスカット・ハベリーA	5.8	894
	ヒロハブルグ	2.9	565
	アーリー・スチューベン	1.9	240
	ネオ・マスカット	1.0	1139
	テラウエア	1.9	33
	安芸クイン	1.4	0
	マスカット・オブ・アレキサンドリア	5.7	366
	グロー・コールマン	0.8	186
リンゴ	つがる	4.8	869
	千秋	1.2	135
	ふじ	8.6	534
カキ	富有	5.6	275
	松本早生富有	3.1	382
	平核無	8.1	1,161
	西条	3.9	474
	愛宕(生果)	6.2	918
	愛宕(乾果)		214
キウイフルーツ		7.4	84
ウメ		4.2	189
ビワ		3.9	316

第2表 本島農場柑橘類生産量

種類	生産量(kg)	
	平成13年度	平成14年度
温州ミカン	5,584	2,926
甘夏	3,487	3,065
イヨカン	5824	584
ハッサク	656	62
ポンカン	148	92
セミノール	144	0
レモン	223	80
その他	1,185	1,185

ii. 野菜・花き部

平成14年度における野菜および花きの耕種・生産の概要をそれぞれ第1表と第2表に示した。

前年と同様、技官1名と技術補佐員1名の計2名で栽培管理を行った。

(1) 果菜類

接ぎ木栽培のスイカは、果実の生育が旺盛であったが、皮が厚く品質が自根よりも劣ることが知られている。そこで品質向上のために自根苗の栽培を試みた。初期生育は自根苗よりも接ぎ木苗の方が良く、その後の生育は接ぎ木苗・自根苗とも順調であった。接ぎ木栽培では果皮が厚かったが、果実の肥大や収量面で自根苗を上回り、果実の糖度も高く、自根苗栽培のメリットはあまりないと考えられた。

イチゴは7月中旬からランナー受けを行い育苗した。定植は10月4日に学生実習で行い、その後の生育は順調であった。12月下旬から収穫を行うことができた。3月中旬に自動に設定していた天窓からヒヨドリが飛来して食害に遭ったが、防鳥糸を張った結果、被害がなくなった。

トマトの春作は、1月4日に播種を行い、2月18日に定植しその後の生育は順調であったが、4月下旬に葉先が枯れて生育が遅れ、果実の肥大が劣った。その後昨年と同様コナジラミが多数発生し、薬剤散布を行ったが、駆除できなかった。5月27日から収穫を行う事ができた。また、労力の軽減化と受粉の向上のため4月25日にマルハナバチを導入した。秋作では7月16日に播種し、8月6日に定植を行った。初期生育は順調であった。これまでオンシツコナジラミが多数発生していたので、対策としてラノーテープを導入した結果、オンシツコナジラミの発生はみられなかった。このことにより薬剤散布の回数が激減した。これまではレディーファーストを主体で栽培をしていたが、裂果が多いので秋作からは試験的に裂果に比較的強い桃太郎ファイトを導入した。

ナスは2月28日に播種を行い、4月26日に学生実

習により定植した。生育は順調であったが、7～8月の高温期にカメムシやヨトウムシが多く発生し、一部の果実が食害を受けたが、薬剤散布により防除でき大きな被害はなかった。8月下旬に切り戻し剪定を行い、11月5日まで収穫した。

(2) 葉菜類

ハクサイについては、直播栽培で1回目の播種を8月29日に行い、2回目の播種を9月5日に行った。前年度は幼苗期に虫害を受け、補植用株を多く必要としたため、本年は2回目の播種時に間隔を狭くして播種し、間引き菜として販売しつつ、最終的には48cm間隔にした。7～8月の高温期にコナガやヨトウムシが多く発生し、薬剤散布に努めた結果、被害は少なかった。11月11日に収穫を行うことができ2月24日まで収穫できた。

タマネギは9月12日に播種し、10月28日に学生実習により定植を行った。前年は雑草の管理が行き届かなかったが、本年は学生実習での除草などにより雑草が少なかった。このため、玉揃いが良く収穫作業が効率的に行う事ができた。

(3) 花き

電照キクの品種は、黄金'、'心'、'轟'、'金風車'、'舞風車'の5種類であった。植え傷みを防ぐため寒冷紗を張り定植は8月19日に行い、その後の生育は順調であった。電照は8月23日に開始し、11月20日に終了した。収穫は正月用の花として12月上旬から始め、年内に終了した。

露地キクの初期生育は順調であったが、7～8月の高温期にシンクイムシやヨトウムシが多く発生し、'金風車'、'寒桜'、'寒月光'などが芯を止められるなどの被害があった。

カーネーションは定植を6月27日に行った。品種は'ロザリア'、'リセエンス'、'イルミネーション'の3種類であった。定植時に'イルミネーション'に植え傷みが生じ枯死したものがあった。その後の生育は順調で1月7日から収穫可能となった。

(山本 昭)

第1表 平成14年度野菜耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
トマト	レディファースト・ミニ	汎用温室B	440.0 (m ²)	1,136.6 (kg)
ナス	黒陽	南1号	2.0 (a)	991.4 (kg)
スイカ	美綺二号	南1号	7.5 (a)	1,231.1 (kg)
キンウリ	金太郎	南1号	3.0 (a)	476.0 (kg)
ソラマメ	打越一寸	南2号	2.0 (a)	94.9 (kg)
イチゴ	とちおとめ	ガラス温室	181.0 (m ²)	315.3 (kg)
ハクサイ	金将2号・無双	南2号	10.0 (a)	2,019.5 (kg)
ハクサイ(間引き)	金将2号・無双	南2号		81.0 (kg)
コマツナ	楽天	ハウス	250.0 (m ²)	205.1 (kg)
チンゲンサイ	西武	ハウス	250.0 (m ²)	173.9 (kg)
白タマネギ	ターボ・OK	南2号	4.5 (a)	1,960.3 (kg)
赤タマネギ	猩々赤	南2号	1.5 (a)	305.8 (kg)
タマネギ苗	ターボ・OK・猩々赤	南1号	2.0 (a)	6,420 (本)

第2表 平成14年度花き耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
露地ギク	雪小路・他	南2号	5.0 (a)	4,394 (本)
電照ギク	心・他	ハウス	250.0 (m ²)	2,975 (本)
カーネーション	リセエンヌ・他	汎用温室C	65.0 (m ²)	2,245 (本)
スターチス	ブルーシンフォニー・他	汎用温室C	65.0 (m ²)	3,058 (本)
カスミソウ	ブリストルフェアリー	汎用温室C	10.0 (m ²)	521 (本)

(4) 山地畜産部門

(1) 和牛

平成14年度の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛生産頭数は、雌が19頭、雄が11頭の計30頭であった。本年は、へい死などによる頭数の減少はなかった。

本年の販売総数は33頭で、子牛が21頭、肥育牛が12頭であった。子牛のうち去勢1頭は、学生の解剖実習用に提供したものが含まれている。

繁殖成績を第2表に示した。人工授精で30頭、受精卵移植で1頭受胎させることができた。昨年と同じくらいの高い受胎率を得ることができた人工授精だが、受胎時期の片寄る傾向は今年も改善できなかった。受精卵移植は今年も移植頭数が少なかった。今後は移植頭数をもっと増やし、2回移植しても受胎しない牛には人工授精を行うなどして積極的に、移植回数を増やしたい。

子牛の販売成績を第3表に示した。出荷頭数は去

勢14頭、雌6頭の合計20頭であった。出荷日齢は前年と比較して、去勢で13日、雌で15日短くなった。出荷体重は前年と比較して、去勢で3kg重く、雌は9kg軽かった。価格は前年より去勢、雌とも高値であった。本年はコクシジウム症の予防プログラムを導入した結果、コクシジウム症による下痢はなかった。しかし、ウイルス性の下痢と疑われるものが発症した。今後も下痢の予防には注意を払い、早期発見や早期治療に努め、月齢に応じた発育の牛を育てたい。

枝肉販売成績を第4表に示した。出荷した去勢牛4頭の枝肉格付は、A-4、A-3、B-3、A-2がそれぞれ1頭であった。本年から餌の給与法を変えて飼育を行ったが、やはり中期以降の餌喰いが悪く体重は増えなかった。今後は、ビタミンの給与法などについて、もっと注意しながら飼育管理をしていきたい。

(野久保 隆)

第1表 平成14年度飼育移動状況

			雌				雄			合計
			子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
14. 04. 01現在			10	3	32	4	14	2	4	69
期間 移動	増	生産	13	-	-	-	8	-	-	21
		振替	-	4	3	2	-	3	2	14
	減	振替	4	3	2	-	3	2	-	14
		へい死 売却	-	-	-	-	-	-	-	0
14. 10. 01現在			16	4	33	2	10	3	4	72
期間 移動	増	生産	6	-	-	-	3	-	-	9
		振替	-	2	4	4	-	-	3	13
	減	振替	2	4	4	-	-	3	-	13
		へい死 売却	-	-	-	-	-	-	-	0
15. 03. 31現在			17	2	33	2	7	0	5	66

第2表 平成14年人工授精・受精卵移植成績

	実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	受精回数 1		2		3		4 以上	
				受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎
人工授精	34	30	88.2	21	3	6	-	3	-	-	1
受精卵移植	1	1	100.0	1	-	-	-	-	-	-	-

第3表 平成14年度子牛販売成績

販売 年月日	耳標 番号	生年月日	性 別	生後 日齢 (日)	体重 (kg)	日齢 体重 (kg/日)	落札 価格 (千円)	kg当り 単価 (円/kg)	母牛 番号	父牛 名号
14.04.26	R771	13.08.19	去	250	280	1.12	293	1,046	Y183	利花
14.05.24	R773	13.08.27	去	270	306	1.133	251	820	Y177	藤姫丸
	R774	13.08.29	雌	268	282	1.052	215	762	Y178	利花
	R775	13.08.29	去	268	286	1.067	259	905	Y191	沢幸土井
	R777	13.08.30	去	267	253	0.947	290	1,146	Y194	金鶴
	R780	13.09.11	去	255	261	1.023	297	1,137	Y185	利花
14.07.19	R776	13.08.30	雌	323	255	0.789	257	1,007	Y203	利花
	R781	13.09.22	去	300	240	0.800	279	1,162	Y173	藤姫丸
	R782	13.10.05	去	287	292	1.017	358	1,226	Y187	沢幸土井
	R783	13.10.07	雌	285	246	0.863	269	1,093	Y179	利花
	R784	13.11.25	去	236	312	1.322	282	903	Y204	藤姫丸
14.11.22	R786	14.03.06	去	261	272	1.042	404	1,485	Y209	利花
	R788	14.03.20	雌	247	235	0.951	339	1,442	Y206	利花
	R790	14.04.13	去	223	259	1.161	397	1,532	Y198	利花
14.12.20	R789	14.03.29	去	266	271	1.018	447	1,649	Y196	北仁
15.01.24	R792	14.04.22	去	277	248	0.895	387	1,560	Y192	北仁
	R793	14.05.06	雌	263	236	0.897	273	1,156	Y212	鶴長
	R794	14.05.16	去	253	277	1.094	401	1,447	Y200	鶴長
	R795	14.05.22	去	247	256	1.036	377	1,472	Y211	北仁
15.03.20	R796	14.06.24	雌	269	230	0.855	291	1,265	Y199	利花
	平均	全頭	20	265	264	0.996	318	1,201		
		去勢	14	261	272	1.041	337	1,238		
		雌	6	275	247	0.896	274	1,107		

第4表 平成14年度枝肉販売成績

と 殺 年月日	耳標 番号	性 別	水引枝 肉重量 (kg)	枝肉 規格	枝肉 単価 (円/kg)	売上 金額 (円)
14.04.11	Y100	雌	339.5	C-1	170	59,365
	Y160	雌	367.4	C-1	170	64,658
14.04.19	Y150	雌	387.4	C-1	200	79,680
	Y162	雌	380.5	C-1	200	78,300
	W132	去	515.1	A-4	1,550	807,501
	W133	去	451.0	B-3	1,324	607,091
14.10.09	Y147	雌	393.4	B-2	400	159,560
	Y190	雌	447.8	B-2	800	384,440
15.01.09	W134	去	433.4	A-3	1,450	631,413
	W136	去	428.4	A-2	1,030	449,235
15.02.25	Y167	雌	393.0	C-1	480	191,151
	Y174	雌	430.0	C-1	480	208,994

(2) 飼料作物

平成14年度における飼料作物の生産状況を第1表に示した。

採草地における飼料作物の青草換算による収量は264,050kgであり、10a当たり平均収量は5,324kgであった。採草地と放牧草地との収量を合わせた総収量は400,290kgとなった。利用形態別による収量割合は青刈りで37.5%、乾草で6.5%、サイレージで22.0%、放牧で34.0%となった。

今年度は全体的に夏の少雨の影響が大きく、前年度に比べ飼料作物の収量は低調となった。

乾草調製用の材料草としてE、K3号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、K1号草地からイタリアンライグラスを収穫した。本年の乾草収量は平成13年度に比べ1,700kgの減収となった。

E号草地においては昨年の約半分の収量となった。その原因として、播種後の生育不良に加え雑草が繁殖したことによる影響が大きかったものと考えられる。また、K1、K3については生草換算の全体収量を見るとほぼ平年並みとなった。スーダングラスについて、乾草調製収量は減っているが青刈りの割

合が多く、生草換算で見ると例年並の収量であった。

サイレージ調製用の材料として、A号草地からソルゴー、D号草地からトウモロコシを収穫した。サイレージ調製の量を見ると今年度は13年度の約半分となった。これは夏の少雨が影響し、K1、K2号草地のトウモロコシ、ソルゴーの生育が思わしくなかったため青刈りへまわしたためである。また、今年度もイノシシの食害対策のため電気牧柵を設置したが一部で食害が見られた。例年より被害は少なかったものの、今後さらに被害を食い止めるため、イノシシの侵入を防ぐネットや柵の設置などが検討課題である。

放牧草地ではオナモミ、イチビ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、毎年学生実習等で除草作業を行っている。ワルナスビ、イグサについては集中して繁殖している箇所へ除草剤散布を行った。効果はみられたが牧草への影響も大きいので、散布方法や時期など牧草への影響を最小限に押さえる方法を検討する必要がある。

(川畑昭洋)

第1表 平成14年度津高牧場飼料作物生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量 (kg)				草地当り収量 (kg)			
			青刈	乾草	サイレージ	放牧	放牧 延頭数	生草換算 収量(kg)	生草合計 収量	10a当り 平均収量
A	100	エンバク	10,540					10,540	63,320	6,332
		ソルゴー	9,790		28,660			52,780		
D2	130	トウモロコシ	13,370		30,020			58,400	91,810	7,062
		イタリアンライグラス+エンバク	33,410					33,410		
E	76	イタリアンライグラス	3,210	850				7,460	30,590	4,025
		スターングラス	14,630	1,700				23,130		
K1	90	イタリアンライグラス	2,140	900				6,640	22,070	2,452
		トウモロコシ	15,430					15,430		
K2	60	イタリアンライグラス	11,520					11,520	32,940	5,490
		ソルゴー	21,420					21,420		
K3	40	イタリアンライグラス	1,880	580				4,780	23,320	5,830
		スターングラス	12,640	1,180				18,540		
小計	496		149,980	5,210	58,680			264,050	264,050	5,324
B	65	混播牧草				10,480	262	10,480	10,480	1,612
C	120	混播牧草				25,960	649	25,960	25,960	2,163
D1	20	混播牧草				2,880	72	2,880	2,880	1,440
F	104	混播牧草				21,720	543	21,720	21,720	2,088
G	112	混播牧草				21,800	545	21,800	21,800	1,946
H	47	混播牧草				9,480	237	9,480	9,480	2,017
I	185	混播牧草				43,920	1,098	43,920	43,920	2,374
小計	653					136,240	3,406	136,240	136,240	2,086
合計	1,149		149,980	5,210	58,680	136,240	3,406	400,290	400,290	3,484

利用形態別における生草換算収量

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
149,980	26,050	88,020	136,240	400,290

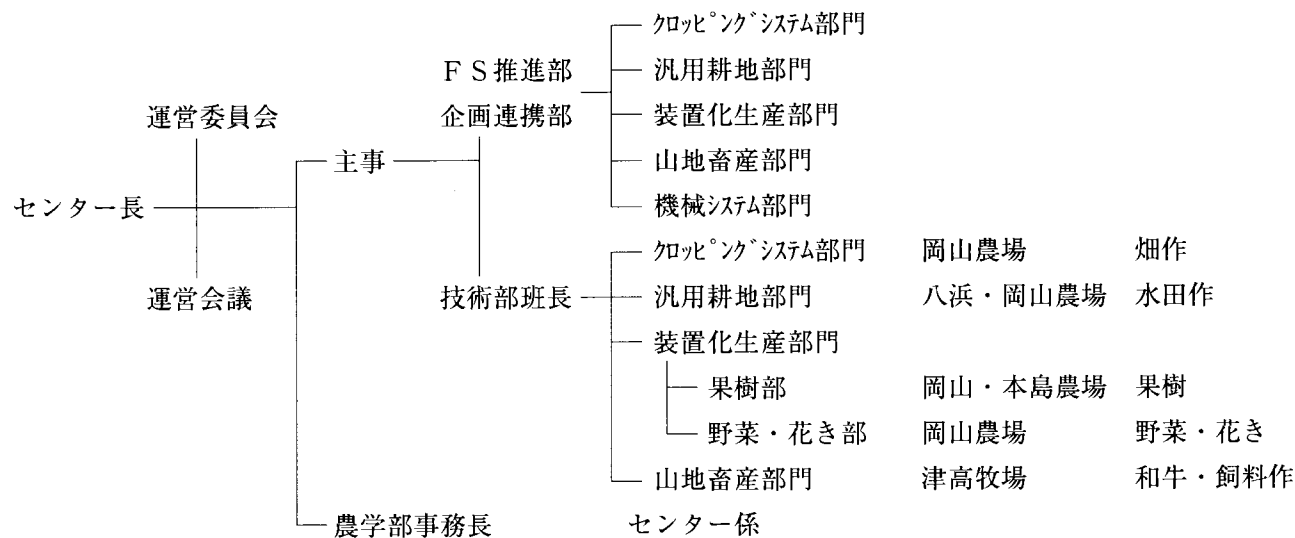
*サイレージの生草換算はトウモロコシ, ソルゴー×1.5

*乾草の生草換算は×5

2. 事務部

(1) 組織

(1) 機構



(2) 教職員数

区分	教育職(一)	行政職(一) 技官 事務官	計	非常勤職員	合計	備考
センター長	1		1		1	併任
主事	1		1		1	助教授
教授	1		1		1	
助教授	1		1		1	
助手	1		1		1	
班長		1	1		1	
主任		3	3		3	
技官		4	4		4	
事務長		1	1		1	併任
係長		1	1		1	
主任		1	1		1	
計	5	11	16		16	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				4	4	
技術補佐員				3	3	
臨時用務員				1	1	
合計	5	11	16	10	26	

(3) 技術部部門別職員数

部 門	技 官	非常勤職員	合 計	備 考
クローピングシステム	2	1	3	
汎用耕地	1	1	2	
装置化生産				
果樹	2	3	5	
野菜・花き	1	1	2	
山地畜産	2	1	3	
合 計	8	7	15	

(2) 予算及び収入

(1) 予 算 (振替, 事項指定等特殊な予算は除く)

平成14年度 事 項	金 額 (円)
センター経費	44,281,000
(内訳) 作付積算分	(18,306,000)
収入見込分	(25,975,000)
自動車維持費	417,000
清掃費	302,000
警備委託費	650,000
污水处理施設運営費	292,000
消防設備費	50,000
普通庁費	164,000
合 計	46,156,000

(2) 収 入

平成14年度					(円)
区 分	クローピングシステム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
果 菜 類	670,420		1,600,110		2,270,530
葉 菜 類	1,917,470		726,360		2,643,830
根 菜 類	1,362,950				1,362,950
花 卉 類	91,400		1,322,700		1,414,100
甘しょ類	797,200				797,200
果 樹			6,573,650		6,573,650
米		8,578,282			8,578,282
牛				10,144,051	10,144,051
合 計	4,839,440	8,578,282	10,222,820	10,144,051	33,784,593

(3) 土地, 建物面積

(1) 土地

農場等名	面積 (㎡)	所在地
岡山農場	91,992	岡山市津島桑の木町 1-62
八浜農場	89,568	玉野市八浜町大崎 1771
本島農場	22,161	香川県丸亀市本島町泊
津高牧場	312,484	岡山市日応寺
合計	516,205	

(4) 営繕工事

(1) 営繕工事 (1件50万円以上)

平成14年度		
工事名	数量 (式)	金額 (円)
津高牧場和牛運動場屋根取設工事	1	12,180,000

(5) 会議開催状況

(1) 運営委員会

開催月日	協議事項	報告事項
14. 6. 5	1. 附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会規程について 承認 2. 附属山陽圏フィールド科学センター運営会議内規について 承認 3. フィールド科学センター運営体制について 承認	1. 平成14年度春季全国大学附属農場協議会について 2. 平成14年度「大学等地域開放事業『大学jrサイエンス&ものづくり』」の実施計画について 3. 津高牧場の環境対策について
15. 3. 14	1. 平成15年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会委員について 承認 2. 平成15年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター併任教員について 承認 3. 平成15年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター専任教員の講座への併任について 承認	1. 平成14年度「大学等地域開放事業『大学jrサイエンス&ものづくり』」の実施計画について 2. 津高牧場の環境対策について
15. 3. 14	4. 平成15年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営会議委員について 承認 5. 平成15年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター実習科目について 承認	

(2) 運営会議

開催月日	協議事項	報告事項
14. 4. 24	<p>1. 附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会規程について 訂正箇所を見直し次回運営会議に諮る</p> <p>2. 附属山陽圏フィールド科学センター運営会議規程（内規）について 訂正箇所を見直し次回運営会議に諮る</p> <p>3. フィールド科学センターにおける講演会について 講演会を継続することで承認</p> <p>4. 平成14年度春季全国大学附属農場協議会について センター長、主事の出席について承認</p> <p>5. 平成14年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 岸田教員、山本技術専門職員の出席について承認。</p> <p>6. フィールド科学センター報告について見直し発行について承認</p> <p>7. フィールド科学センター概要について 承認</p> <p>3. 予算施設委員会について 主事の出席について承認</p> <p>9. フィールド科学センターの英名について 「FieldScienceCenter」を承認</p>	<p>1. フィールド科学センターホームページについて</p> <p>2. 平成14年度フィールド科学センター実習について</p> <p>3. 農場概要について</p> <p>4. 受験生用パンフレットについて</p> <p>5. 学部紹介ビデオについて</p> <p>6. 図書館ホームページについて</p> <p>7. IV号館の機械警備について</p> <p>8. 講義室、第1実習室及び学生更衣室改修工事状況について</p> <p>9. 資材庫の改修工事について</p> <p>10. 津高牧場管理棟の室名について</p> <p>11. 改修工事に伴う物品移動について</p> <p>12. 平成13年度末の備品類整備状況について</p> <p>13. 技術部会議等について</p> <p>14. フィールド科学センター特別予算について</p> <p>15. 平成14年度「大学等地域開放特別事業『大学jr. サイエンス&ものづくり』」について</p> <p>16. フィールド科学センター利用内規について</p> <p>17. 会計検査院実地検査について</p>
14. 5. 22	<p>1. 附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会規程について 承認</p> <p>2. 附属山陽圏フィールド科学センター運営会議内規について 一部訂正のうえ承認</p> <p>3. 津高牧場における環境整備と地域対応について 経過説明</p>	<p>1. フィールド科学センター利用申込状況について</p> <p>2. 平成14年度春季全国大学附属農場協議会について</p> <p>3. 農場実習について</p> <p>4. 講義室及び実習室の改修に伴う対応について</p>

開催月日	協議事項	報告事項
14. 6. 12	<p>4. 平成15年度フィールド科学センター実習について 実習内容を検討することを承認</p> <p>1. 平成15年度からの実習について 検討のうえ次回運営会議提案を承認</p>	<p>5. 技術部報告について</p> <p>6. 平成14年度中国・四国地域 大学附属農場協議会の出席者 (事務部) について</p> <p>7. フィールド科学センターW Gについて</p> <p>1. 平成14年度第1回農学部附 属山陽圏フィールド科学セン ター運営委員会について</p> <p>2. 教務委員長との打ち合わせ について (平成15年度からの 実習)</p> <p>3. 津高牧場の環境対策につい て</p> <p>4. 平成14年度大学開放特別事 業について</p> <p>5. フィールド科学センター利 用申込状況について</p> <p>6. 会計検査院実地検査につい て</p> <p>7. 技術部報告について</p> <p>8. 学部等紹介ビデオの編集に ついて</p> <p>9. 牧場実習ポスターの作成に ついて</p>
14. 7. 3	<p>1. 平成15年度からの実習について 承認</p> <p>2. フィールド科学センター見学会について 承認</p>	<p>10. 第2回講演会について</p> <p>1. 平成14年度牧場実習日程 (ポスター) について</p> <p>2. 平成14年度大学開放特別事 業について</p> <p>3. 平成14年度生産米の直売に ついて</p> <p>4. フィールド科学センター ホームページについて</p> <p>5. フィールド科学センタービ デオについて</p> <p>6. フィールド科学センター利 用状況について</p> <p>7. 技術部報告について</p>

開催月日	協議事項	報告事項
14. 9. 11	<ol style="list-style-type: none"> 平成14年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会並びに教育研究集会についてセンター長の出席を承認 津高牧場環境改善の対策について環境改善の実施を承認 大学開放事業「もち米づくり」に伴う稲刈行事について 承認 	<ol style="list-style-type: none"> センター見学会について 平成14年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 養護学校体験学習及び総合演習について 作物集中実習及び牧場実習について フィールド科学センター利用状況について 技術部報告について 平成13年度生産物販売収入状況について 岡山大学リエゾン・オフィスフェアの開催について
14. 10. 2	<ol style="list-style-type: none"> 津高牧場環境改善の予算化（施設整備費）における整備計画（案）について承認 	<ol style="list-style-type: none"> 養護学校体験学習及び総合演習について 平成15年度実習計画について 平成14年度後期実習開始について 津高牧場畜魂祭について フィールド科学センター利用状況について 技術部報告について
14. 10. 30	<ol style="list-style-type: none"> 平成13年度農場経費決算並びに平成14年度センター運営予算（案）について承認 	<ol style="list-style-type: none"> 平成14年度全国大学秋季農場協議会について 平成14年度大学等開放特別事業「もち米づくり」について 技術部報告について 養護学校体験学習及び総合演習について 平成14年度農場演習Ⅱ（後期）の開催について 津高牧場畜魂祭について
14. 12. 4	<ol style="list-style-type: none"> 平成15年度作付計画について次回運営会議に諮ることを承認 平成15年度センター関連実習（案）について一部訂正した上で承認 	<ol style="list-style-type: none"> 大学等開放事業のWGについて 平成14年度生産米の直売結果について 技術部報告について

開催月日	協議事項	報告事項
15. 1. 8	3. 技術部研究報告会について 期日を改めて検討次回運営会議に報告 4. フィールド科学センター業務当直規程の一部改正について 承認	4. ホームページの改訂について
15. 1. 8	1. 平成15年度作付計画（案）について 承認 2. 技術部研究報告会について 承認 3. 平成15年度大学開放特別開放事業実施計画について 要求書（案）の作成を承認	1. 大学等開放事業の結果について 2. 津高牧場隣接町内会との懇談について 3. 技術部報告について
15. 2. 12	1. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会開催WGについて 承認 2. 平成14年度センター講演会について 承認 3. 平成15年度大学等地域開放特別事業の実施計画について 要求書の作成を承認 4. 中学生の職場体験学習（津高牧場）の依頼について 承認 5. 平成15年度センター併任教員について 承認 6. 平成15年度春季全国農場協議会及び平成16年度要望書について 承認	1. 技術部報告について 2. 平成14年度産米の直売GWの結果報告について
15. 3. 5	1. 平成14年度センター運営経費の追加配分について 承認 2. 平成14年度の機械・設備購入計画について 承認 3. 第5回センター講演会について 承認 4. 平成15年度大学等地域開放特別事業について 承認 5. 平成15年度センター併任教員（企画連携）の依頼について 承認 6. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 承認 7. センター改組後における成果について 承認 8. センター運営委員会について 承認	1. 平成15年度技官研修会（3月13日）について 2. 中学生の職場体験学習（津高牧場）終了について 3. 津高牧場隣接町内会への工事概況説明について 4. 岡山大学地域貢献事業について 5. 第4回センター講演会について 6. 技術部報告について 7. トラクターの入札結果について

(6) 施設開放状況

施設利用目的, 時期	施設利用者名	期 間	団 体 数 等	参加人数
いもほり (10月1日～10月29日)		1日	41団体 (4,080株)	2,810
	保育園		11 (1,360株)	801
	幼稚園		8 (1,275株)	761
	親子クラブ		7 (392株)	433
	その他		15 (1,053株)	815
教育実習 (10月2日～10月4日)	岡山大学教育学部 附属養護学校	3日	1	8 (延24名)
見学 (5月27日)	津島小学校	1日	1	21
見学 (11月18日)	倉敷芸術科学大学	1日	1	7